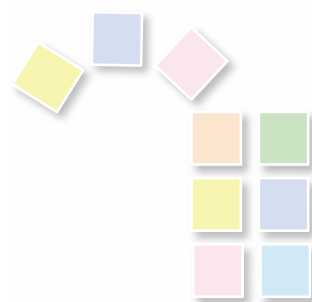


## Ⅱ 就学前教育カリキュラム 活用方法例



# 就学前教育カリキュラム活用方法例の見方

◆ 活用方法例は、次の3場面で構成しています。

**<活用場面 1> 個人における活用**

保育者が個人で使う場面を想定しています。

**<活用場面 2> 学年、園における活用**

クラスや学年の複数の保育者、園全体での研修などで使う場面を想定しています。

**<活用場面 3> 地域における活用**

地域の方や未就園児の保護者への説明、近隣の保育所や幼稚園等、小学校での研修などで使う場面を想定しています。

◆ 活用方法例のフォーマットの見方は、次の吹き出しのとおりです。

活用する部分の「就学前教育カリキュラム活用ハンドブック」での掲載ページや、内容を記載しています。  
※ 就学前教育カリキュラムから活用する部分は、「カリキュラム」と記しています。

活用対象者や活用の概要を記載しています。

実際に活用する際の手順や方法などを示しています。  
・資料の作成方法や内容の例  
・会の進め方 など

活用することによって期待される成果を示しています。

◆ 本ハンドブックで使用する用語は、次のことを示しています。

- ・カリキュラム…「就学前教育カリキュラム」のこと
- ・ハンドブック…「就学前教育カリキュラム活用ハンドブック」のこと
- ・3要素…就学前教育カリキュラムで示した「生きる力の基礎」の「学びの芽生え」「人とのかかわり」「生活習慣・運動」のこと
- ・8視点…「乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容」の視点「思考」「言葉」「創造」「協同」「信頼」「規範」「基本的な生活習慣」「運動」のこと
- ・保育者…保育所や幼稚園及び認定こども園等、就学前教育施設の保育士及び教員のこと

# 1

## 週日案

～週日案の作成及び見直しを図る～

### <活用のポイント>

- ・「**保育・教育課程**」の該当する期や自園の指導計画等を参考にしながら、**3要素**を意識して週日案を立てる。
- ・「**保育・教育課程**」の該当する期の前後のページを参照し、クラスや子供の実態に合わせて、立案する。

週日案の視点に「生きる力の基礎」の3要素を取り入れ、自分の保育の内容を見直します。



保育者

### <活用の手順、方法など>

- 1 ねらい、内容及び保育者の援助について、★**学びの芽生え**、●**人とのかかわり**、▲**生活習慣・運動**の3要素を踏まえて記述する。
- 2 クラスや子供の実態に応じて、カリキュラム「保育・教育課程」の該当する期とともに、前後の期の内容を参考にして計画する。

### ○ 活用の実際 5歳児 ○○組 7月4日～7月8日 週日案

前週の子供の実態		保育者の援助		
・貝つなぎでは、グループの友達と一緒に活動することが分かって、順番に飾ろうとしたり長くつなげようとしていたりする子供が見られる。一方で、リードする友達に任せて自分の思いを伝えられない子供や、グループの友達と一緒に作るという意識が薄く、その場を離れてしまう子供も数名見られる。 ・プール遊びでは、小学校でのプール遊びがきっかけとなり、ビート板を使って腕や足を伸ばして泳ごうとする子供が多く見られる。また、友達と顔を水につけるのを見せ合う姿も見られる。	ねらい ★自分なりに課題をもち、工夫したり試したりして遊ぶ。 ★●▲友達に自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いや考えに気付いたりしながら遊びや生活を進めていこうとする。 ●グループの課題を自分なりに受け止め、友達と一緒にしようとする気持ちをもつ。	保育者の援助 ●七夕に向けて、友達の願いごとを聞いたり、グループの友達と飾りを付けたりして、友達と一緒に興味をもって楽しめるようにする。 ★●笹飾りでは、自分なりにじっくり取り組んだり、丁寧に折り紙を折ったりして作ることを楽しめるようにする。また、友達と一緒に作る楽しさを味わえるようにし、子供同士の伝え合いを引き出していく。 ★工夫したり試したりすることが十分できるように教材の種類、内容、教材を置く場所など活動の様子を見ながら設定する。 ★●染め紙遊びや色水遊びでは、何度も繰り返し活動する中での子供の発見や工夫などを、保育者が言葉に表しながら認めることで、周囲の子供へも伝えていく。 ▲暑い日が予想されるので、水分補給や休息の時間を取るようにする。子供たちには、汗をかいたらタオルで拭く、水を飲むなどが自分でできるように声を掛けていく。…		
	内容 ★プール遊びや水遊びでは、自分なりにめあてをもってやってみようとする。 ★いろいろな素材の組み合わせを楽しんだり、工夫して使ったりする。 ●友達とのつながりを楽しみながら、友達の刺激を受け入れて動いたり、自分なりのイメージや動きを表したりして遊ぶ。 ●友達に自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたり受け止めたりする。 ●友達と一緒に一つの物を作ることが分かり、グループの友達と一緒に思いを出し合って作る。 ▲自分で気付いて汗を拭いたり、衣服の調整をしたりしようとする。			
4日(月)	5日(火)	6日(水) 避難訓練	7日(木) 七夕	8日(金) 身長・体重測定
9:00 ○登園・所持品の始末	9:00 ○登園・所持品の始末	9:00 ○登園・所持品の始末	9:00 ○登園・所持品の始末	9:00 ○登園・所持品の始末

### <活用で期待される成果>

- ねらいや内容を3要素から捉えて週日案に記述し、年間を通じて活用することにより、子供の発達や必要な経験を踏まえた保育を積み重ねることができる。
- 複数の保育者が指導に当たる際に、保育者の関わり方や指導する内容について共通理解を図ることができる。

# 2

## 保育記録

～日々の子供の姿と、経験している内容を捉える～

### <活用のポイント>

- ・ハンドブック P.11「乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨」の**3要素・8視点**を、記録用紙に転記して活用する。

視点を定めて記録をすることにより、子供の経験を丁寧に捉えて、保育の見直しや翌日の保育につなげます。



保育者

### <活用の手順、方法など>

- 1 「生きる力の基礎」と「子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点」の項目をそのまま掲載して、記録用紙を作成する。(次ページ参照)
  - 2 その日の保育から、子供が自ら選んだ活動(遊び)と皆(クラス、学年、園など)で行った活動内容を箇条書きで挙げる。
  - 3 それぞれの活動ごとに、8視点を意識して子供の姿や保育者が行った援助を記入する。
    - ・ 複数の活動を記入する場合は、①②やABなど分かりやすく記号を付け、それぞれについて記入する。
    - ・ 日や週のねらいに関わる視点に重点を置くなどの工夫をする。(常に8視点全てを記入しなくてもよい。)
  - 4 明日の保育に向けて必要なことを記入する。  
(新たに準備するもの、整理をしておくもの、保育者の働き掛け方、意識して援助する内容など)
  - 5 園内の職員と連携を図りたいこと、伝えておきたいことなどがあれば記入する。
  - 6 家庭に伝えたことや今後伝えたいこと(子供の成長として伝えること、空き容器の収集等家庭への依頼事項など)があれば、記入する。
  - 7 備考欄には、保育者が迷ったことや悩み、うれしかったことなども書き留めておくことにより、話し合いの時間が取りにくい場合も保育者間で情報の共有ができる。
- ※ 週の記録や評価・反省、行事の評価・反省などにも活用できる。

### <活用で期待される成果>

- 8視点を意識して保育を振り返ることで、子供の経験している内容を細やかに把握するとともに、翌日へのつながりを意識して保育に臨むことができる。
- 視点を明確にすることで、その保育者が捉えている子供の姿や保育の内容を分かりやすく整理することができる。そのため、管理職への報告、他の保育者への相談や協議及び保育内容の共通理解がしやすくなる。

活動内容		子供が自ら選んで行う活動 (好きな遊び)		皆で行う活動	
★ 学びの芽生え	思考 興味・関心、好奇心 探求心、など	子供の姿・保育者の援助	評価・反省	子供の姿・保育者の援助	評価・反省
	言葉 話す・聞く 伝え合う 言葉に対する感覚 など				
	創造 感性 イメージ 素材や表現方法との 出合い など				
	協同 共感 調整 他者理解 自己理解 など				
● 人とのかかわり	信頼 自己表出 受容 自信 思いやり など	子供の姿・保育者の援助	評価・反省	子供の姿・保育者の援助	評価・反省
	規範 善悪に気付く きまり ルール など				
	▲ 生活習慣・運動				
基本的な生活習慣 生活リズム 安全 健康 自立 など	子供の姿・保育者の援助	評価・反省	子供の姿・保育者の援助	評価・反省	〔備考〕
運動 体を動かす楽しさ 体力 など					
明日の活動に向けての 準備					
職員間の連携					
家庭との連携					

# 3

## クラスの活動を考える

～「指導例」に掲載されている内容を参考に、活動を計画する～

### <活用のポイント>

- ・カリキュラム「保育・教育課程」の右ページに記載されている「指導例」を参考に、クラスの実態に合わせて計画を立て、実践する。

その時期に重要なポイントをおさえながら、クラスの実態に応じて、活動を計画します。



例：4歳児Ⅱ期 指導例「フルーツバスケットは楽しいな」（次ページ参照）

保育者

### <活用の手順、方法など>

- 1 クラス（2年保育4歳児）の実態に合わせ、「いちご」と「ミルク」の2種類でできる「いちごミルクゲーム」を行う。
- 2 みんなで唱和する言葉は、クラスの子供がリズムに乗って言えるものを考え取り入れる。
- 3 「指導例」を参考にして、教材や環境を用意する。
  - ・ いちごミルクの二つの役に分け、それぞれの役が自分でも分かるよう、イラストで示したペンダントを首から掛ける。
  - ・ 椅子は円形に並べる。初めは、椅子は全員が座れる数を用意して行い、安心して参加できるようにする。
- 4 実際に活動を行う。
  - ・ 「いちごミルクはおいしいな」という唱和の後に、保育者が「いちご」「ミルク」「いちごミルク」の中からコールをし、子供は自分の役が呼ばれたときに、空いている別の椅子へ移動する。
  - ・ 慣れてきたら椅子を減らし、座れなかった子供が中央で次のコールを行うようにする。自分が言ったことにみんなが応えてくれることがうれしく、なかなか座りたがらない子供も見られるようになる。
  - ・ 自分の言葉にみんなが応えて動いてくれるうれしさや楽しさを全員に経験させたいと考え、子供の様子に応じて、早く座れた子供が次のコールをするなど、ルールを子供の状況に応じて変更して行う。
  - ・ 最後に、できあがったいちごミルクジュースにストローをさし、飲むまねをして楽しむ。



みんなで唱和する。  
リズムに合わせて言う  
と楽しい！



### <活用で期待される成果>

- 「指導例」には環境の構成、経験している内容などを具体的に掲載しているため、日々の保育にすぐに生かすことができる。そのため、経験の浅い保育者にとっても、クラスの実態に合わせて工夫しながら取り入れやすい。
- この活動での子供の経験が「生きる力の基礎」のどの要素につながるのかをあらかじめ意識して、実践及び評価を行うことができる。



## みんなで唱和したり一緒に動いたりする楽しさを感じる

## 環境の構成

## ◆ 2～3種類の果物に分ける

順番を待つ時間が長くなるように、果物の種類は2～3種類にする。果物の絵の描いてあるペンダントを首から掛けると自分でも見えて分かりやすい。慣れてきたら果物の色の帽子でもよい。

## ◆ 円形に椅子を並べる

クラス全員で唱和したり、合図に合わせて動いたりする楽しさを味わえるように、子供が座る椅子を中央向きで円形に並べる。移動するときに衝突しないように、隣との間隔にゆとりをもつ。

## ◆ 基本のルール

果物の絵の描いてあるペンダントを首に掛けて座る。手拍子と共に「フルーツバスケット」と全員で唱和した後にコールされた果物のペンダントを掛けている子供が立ち、空いている席へ移動する。

## 子供の姿

最初は保育者が果物をコールする。子供たちは自分が呼ばれるのを楽しみにするが、中には呼ばれていなくても移動して「○○ちゃん違うよ」と友達に言われる子供や、コールに気付かない子供もいる。好きな友達の隣に座ろうとして「ここがいい」と席の取り合いになる子供もいる。

次第に「フルーツバスケット」と唱和する声がそろって、遊びにリズムが出てくる。慣れてきた頃に全員が席を移動する「みんな」のコールを取り入れると全員で一緒に動くことを喜び、声を上げながら移動する。

何回か経験してルールに慣れた後、椅子を一つ減らし、座れなかった子供が次のコールをするというルールに変える。中央でコールするときに戸惑う子供もいるが、保育者に助けられながら言うことができ笑顔になる。次第にコールをしたくて、座ろうとしなかったり友達に席を譲ろうとしたりする子供が増えてくる。他の子供からは「早く」と声が上ががる。

## 経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかわわり ▲生活習慣・運動

★●ゲームのルールが分かり、ルールに沿って遊ぶ。

★●他の人の合図に合わせて動いたり、自分が合図を出したりする面白さを感じる。

●クラスみんなで一緒に動いたり唱和したりすることを楽しいと感じる。



★みんなでリズムのある言葉を唱和することを楽しむ。

●一緒に活動をする中で、クラスの友達に親しみをもつ。

## 援助のポイント

## ◆ 唱和する楽しさが感じられるような言葉や合図の工夫をする

コールに注目しやすく、唱和する楽しさが感じられるように静と動のメリハリのある流れを作る。例えば、みんなで手拍子をするともに「お引越し」と唱和した後に次の果物の名前をコールすると、コールするタイミングがとりやすく、聞く側も集中しやすい。

## ◆ みんなで遊ぶ楽しさを通して、クラスの友達への親しみをもてるようにする

集合時にはいつも好きな友達の隣に座りたい子供もいるが、ゲームの中でいろいろな友達の隣になったり、みんなで一緒に動いたりする楽しさを経験することで、クラスの友達への親しみをもてるようにする。

## ◆ 子供の動きに応じたルールを取り入れ、テンポよく遊びを進める

ゲームの理解の様子や子供の動きに応じて、ルールを変えていく。遊びが長く中断すると楽しさが続きにくいので、ゲームがリズムよく進むようなルールを取り入れる。座ろうとしない、動こうとしないなどの姿の背景にある、コールしたい気持ちや座れない不安を受け止め、うまくいったときを好機と捉え、認めたり保育者が一緒に行動したりしながら楽しさを感じさせて、自分から動けるようにする。

# 4

## 小学校教育との連続性を意識した保育

～小学校入門期とのつながりを意識して、保育を見直す～

### <活用のポイント>

- ・ハンドブック P.72「表示を手掛かりにしながら、見通しをもって活動する。」について、現在のクラスの子供の経験内容や方法を見直し、保育の充実を図る。

日常的に行っている活動を見直すことにより、小学校生活に必要な力へのつながりを意識して保育を行います。



保育者

### <活用の手順、方法など>

- 1 「小学校入門期における指導の接続」の中から、クラスや子供の実態に応じて参考にする内容を選択する。
- 2 選択した内容を参考に、クラス的环境や生活の流れを見直し、改善する。
- 3 実践する。

#### ◆ 生活（スケジュールボード・紙で作った時計の表示）

- ・ スケジュールボードは、1日の見通しを理解する手掛かりになるように、保育室の見やすい場所に設置する。
- ・ 文字と絵の両方を掲示することで、どの子供にも分かりやすくするとともに、文字や数字への関心を高める。
- ・ 午前と午後の活動の区切りを分かりやすくするために、給食後の活動の表示の色を変える。
- ・ 帰りの会でもスケジュールボードを使って翌日の話をする事で、次の日の見通しがもてるようにする。



#### ◆ 食事（弁当・給食）

- ・ 当番の仕事の手順や、給食の配膳が分かるような表示をする。
- ・ ふきん絞りにも興味もてるように、絞り方を表示する。
- ・ やかんの扱いがしやすいように、盆にコップのマークで置き場所を示しておく。
- ・ 食器を重ねる枚数や高さが分かりやすいよう、表示を下膳の盆の側に置いておく。食器の分類の仕方、陶器の食器の扱い方を自分なりに意識できるようにする。
- ・ 給食のメニューは、子供が見やすいように大きめの紙に書き用意する。
- ・ メニュー紹介や挨拶の合図などを順番に行うことで、大勢の友達の前で発表する経験を、全員が重ねられるようにする。



### <活用で期待される成果>

- 子供の姿や経験していることを捉えて環境を見直し、実態に応じた表示の工夫ができる。
- 表示を使った視覚的な環境を整えることで、自分たちでできたという達成感を味わわせるとともに、主体的に行動する態度を育成することができる。
- 小学校入門期の指導の参考として、就学前教育における自分たちで生活を進める姿や、その際に行った環境や指導の工夫を、小学校教員に具体的に伝えることができる。



# 5

## 個人面談

～子供の成長を継続的に捉え、保護者への説明に生かす～

### <活用のポイント>

- ・ハンドブック P.11 の **3要素・8視点** に沿って、子供の育ちをまとめた資料を作成する。
- ・個々の発達を踏まえて育ちを捉えることができるように、「**保育・教育課程**」の**該当する期**とその**前後の期**を合わせて参考にする。

カリキュラムの視点を生かして、子供の姿をバランスよく捉えることにより、成長の過程を確実に伝えます。



保育者

### <活用の手順、方法など>

- 1 個人面談の資料として、3要素及び8視点につながる子供の姿を記入できるように、記入シートを作成する。(下記<例>を参照)
- 2 子供の姿を「1」で作成したシートに記入する。その際には、3要素に重点を置いて記入し、8視点は参考程度にすると記述しやすい。

<例：2年保育5歳児 7月頃の資料>

番号		氏名	
学びの芽生え	思考	・学年でのお店ごっこへの取組では、年少組にインタビューに行って情報収集をしたり、足りないものを考えたりして積極的に取り組んでいた。 ・保育者に読んでもらう本以外にも、自分で絵本を選んで見るが増えてきた。	
	言葉		
	創造		・リズム体操では、友達と動きを合わせて踊ることを楽しんでいる。 など
人とのかかわり	協同	・強い口調で意見を言う友達に対しても、自分の考えを言おうとする気持ちが高まってきた。	
	信頼		
	規範		・年少児に対して、幼稚園のルールを一生懸命に伝えようとしている。 など
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・自分で気が付いて、身支度などを手際よく行うようになってきている。 ・鬼ごっこに繰り返し取り組むようになり、体の動きが巧みになってきた。 など	
	運動		

- 3 作成した記入シート及び、「保育・教育課程」の前後の期を参照して、今後の成長の見通しや、家庭とともに取り組んでいくことなどを明確にして、保護者に伝える。

※ 記入したシートは個人情報であり、取扱いには十分な配慮が必要である。

(例：記入したシートの保管方法及び活用方法を検討し、園内の共通理解を図るなど。)

### <活用で期待される成果>

- 個人面談は年に数回行うので、同じ視点で継続的に伝えることにより、子供の経験のつながりや積み重ねが伝わりやすくなる。保護者会での教育内容の説明の際にも3要素・8視点をを用いることで、更に理解が図りやすくなる(ハンドブック P.90 活用方法例7参照)。
- 3要素・8視点の、「学びの芽生え」「規範」などの言葉やそこで扱う内容は、保護者にとって小学校での学習や生活をイメージしやすいため、園での経験と小学校教育との連続性について理解を得やすくなる。
- 前後の期のねらいや内容も参考にしながら子供の育ちを捉えて説明することにより、保護者が発達の段階を丁寧に把握し、見通しをもつことができる。